

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日
単元株式数	100株
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所 (郵便物送付先)	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 0120-782-031 (フリーダイヤル) http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html
公告方法	電子公告により行います。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
公告掲載URL	http://www.imagicarobot.jp/ir/announcement.html
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第二部
証券コード	6879

ホームページ紹介

当社の情報はホームページでもご覧いただけます。

コーポレートサイト

<http://www.imagicarobot.jp/>



IRサイト

<http://www.imagicarobot.jp/ir/>



イマジカロボット

検索

Imagica Robot Holdings Inc.

株主・投資家の皆さまへ

2012年4月1日 ▶ 2013年3月31日

グループ経営理念	1
ごあいさつ	2
トップメッセージ	3
セグメント別の概況	5
年間トピックス	7
連結財務データ	9
会社情報／株式情報	10

株式会社 イマジカ・ロボット ホールディングス

〒100-0011 東京都千代田区内幸町一丁目3番2号 内幸町東急ビル11階
TEL: 03-6741-5750



見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

株式会社 イマジカ・ロボット ホールディングス

証券コード: 6879

グループ経営理念

MAGIC FACTORY

Image Magic Creative Magic Technology Magic Communication Magic

イマジカ・ロボットグループは、誠実な精神をもって、映像コミュニケーションにおける新たな価値創造につとめ、人々に楽しい驚きを与える“魔法の工場”をめざします。

imagica robot group

連結子会社(2013年4月1日現在)



- | | | |
|--|---|--|
| <p>■ 映像技術サービス事業</p> <ul style="list-style-type: none"> (株)IMAGICA (株)IMAGICAウエスト (株)IMAGICAイメージワークス (株)IMAGICAトータルサービス | <p>■ 放送事業</p> <ul style="list-style-type: none"> (株)IMAGICA TV (株)IMAGICA FTV | <p>■ 人材コンサルティング事業</p> <ul style="list-style-type: none"> (株)イマジカデジタルスケープ (株)コスモ・スペース |
| <p>■ 映像ソフト事業</p> <ul style="list-style-type: none"> (株)ロボット (株)ピクス (株)ジェンコ | <p>■ 映像システム事業</p> <ul style="list-style-type: none"> (株)フォトロン フォトロン メディカル イメージング(株) PHOTRON USA, Inc. PHOTRON EUROPE Ltd. アイチップス・テクノロジー(株) | |

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
イマジカ・ロボットグループは、2012年12月7日
をもちまして、東京証券取引所市場第二部に上場いた
しました。

これもひとえに株主の皆さまをはじめ、関係者の皆さ
まの温かいご支援・ご協力の賜物と心より感謝申し上げ
ます。

当社グループは、1935年に日本映画の聖地である
京都太秦で極東現像所として創業し、その後、東洋現
像所、IMAGICAと商号を変えながら、映像産業と共に
歩んでまいりました。

現在は、映像技術サービス事業、映像ソフト事業、放送
事業、映像システム事業、人材コンサルティング事業の
5つの事業を展開しており、映像制作の企画・制作から
流通、また映像機器やクリエイティブ人材の提供まで、
映像制作分野全体を事業領域としてカバーしております。

私たちならではの映像へのこだわりで、お客様に
喜んでいただけるよう、技術・クリエイティブ・サービス
と映像の各シーンに精通したプロフェッショナル集団と
して、今後も新たな事業の構築に積極的に挑戦してま
いります。

株主・投資家の皆さまにおかれましては、引き続き
変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願
い申し上げます。



代表取締役社長社長執行役員

長瀬明彦

代表取締役会長グループCEO

長瀬文男

2013年3月期は、大型映画作品やイベント映像など、話題作品を数多く制作いたしました。

大型映画作品や3Dプロジェクションマッピング映像を中心に、多くの話題作の映像制作を手掛けました。

中でも大きな話題となったのは、ロボットが制作および出資した映画「BRAVE HEARTS 海猿」の大ヒットでありました。大変多くの方々にご鑑賞いただき、2012年邦画興収第1位の興収73億円を記録することができました。また、「踊る大捜査線 THE FINAL 新たなる希望」もロボットが制作を手掛けた映画作品で、興収59億円で同第3位と大変好評でありました。

また、昨年は建物などの物体にプロジェクターで映像を映写する、3Dプロジェクションマッピングという技術に注目が集まり、急激に認知度が上昇いたしました。そのきっかけとなったのが、ピクスが映像制作を手掛けた東京駅丸の内駅舎の完成記念イベントの「TOKYO STATION VISION」

であり、これを機に全国各地のイベントで多用されるようになりました。地域のイベントやアーティストのLIVE、新車発表会など様々な場での映像制作を手掛け、大変好評をいただきました。

映画フィルムからデジタルシネマへの移行が急速に進み、減収減益となりました。

2013年3月期は、映像技術サービス事業でフィルム関連市場の厳しい環境があったものの、その他4事業で全て増収となり、連結売上高は499億19百万円(前期比1.9%減)と前期比で若干の減収に留まる結果となりました。損益面ではフィルム設備の減損等を行い、営業利益20億12百万円(同31.5%減)、経常利益20億95百万円(同29.7%減)、当期純利益5億18百万円(同76.6%減)と、前期比で減益となりました。

イマジカ・ロボットグループは映画フィルムの現像を起源

に事業を開始いたしました。2013年3月期は、映画上映がデジタルシネマへと急速に変化した一年であり、フィルム関連事業はその影響を受ける結果となりました。

しかしながら、映像の企画・制作を行う映像ソフト事業では、大型映画作品の制作や3Dプロジェクションマッピング映像に加え、広告制作およびアニメ制作受託も好調に推移し、前期比で増収増益となりました。チャンネル運営を行う放送事業でも、2012年3月に映画チャンネル「イマジカBS」を開局したことにより衛星利用料を中心とした送出コストが増加したものの、運営する全3チャンネルとも好評をいただき、視聴料収入を伸ばしました。また、映像システム事業および人材コンサルティング事業も、それぞれ大型案件を受注したことなどにより、前期比で増収増益となりました。

2014年3月期は、5つの事業全てで増収増益を目指します。

2014年3月期は、5つの事業全てで増収増益の計画で、連結売上高は520億円(前期比4.2%増)、営業利益21億円(同4.4%増)、経常利益22億円(同5.0%増)、当期純利益12億円(同131.3%増)と、前期比で増収増益となる計画であります。

映像技術サービス事業では、映画劇場向けネットワーク配信、およびテレビ番組・CM制作分野でのファイルベース化導入に向けたサービスを開発し、配給会社や劇場、テレビ局等のお客様からいただいている高い信頼をベースに新たなサービスの普及を図ってまいります。映像ソフト事業では、「永遠のゼロ」や「劇場版タイムスクープハンター」、「ジンスク!!!」等、今期も複数の映画作品が劇場公開予定であります。更に昨年注目が集まっている3Dプロジェクションマッピング映像や音楽映像等、競争力の高い分野へも引き続き注力し、ブランド力の向上を図ってまいります。また、放送事業では、充実

した番組編成で、「イマジカBS」等、運営する3チャンネルの魅力を高めるとともに、食専門チャンネル「フーディーズTV」とレシピのブログサイト「タベラッテ」事業の統合により、国内唯一の放送とインターネットを融合させたサービスを展開してまいります。映像システム事業では、主力商品である高速度カメラに、独自に開発した世界初の光学位相差ムラ計測技術を組み込んだ新製品を投入して新市場を開拓する他、人材コンサルティング事業では、本年5月17日より新たにインターネット上で業務を委託・受託するクラウドソーシングサービスを開始するなど、それぞれの分野での事業拡大を進めてまいります。

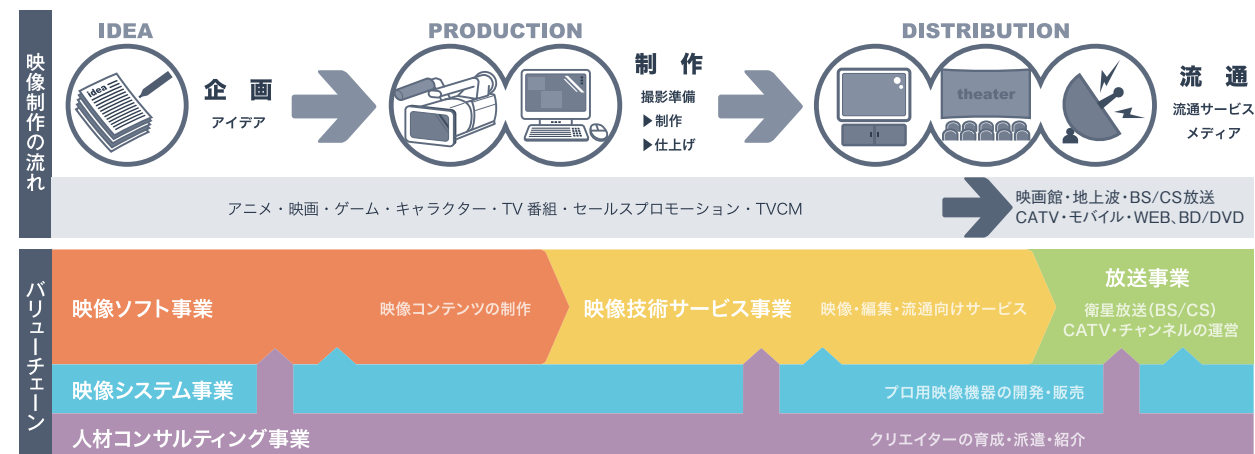
また、4月1日付で「事業推進室」を新設し、海外展開も視野に入れた新規事業開発やM&Aを、これまで以上に積極的に推進してまいります。

誠実な精神をもって、映像コミュニケーションにおける新たな価値創造に努めます。


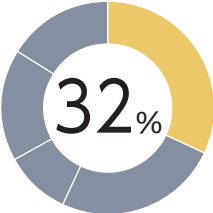

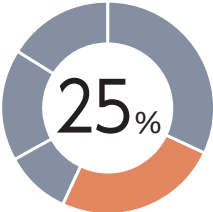

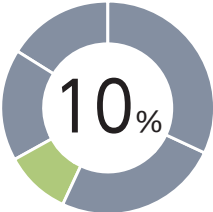

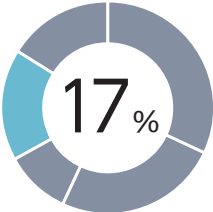

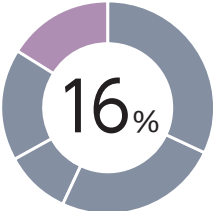
イマジカ・ロボットグループは、経営理念の中で「誠実な精神」を掲げており、株主の皆様をはじめ、全てのステークホルダーの皆様と「映像コミュニケーション」を通してどこまでも誠実におつきあいし続けることをお約束しています。

今後も、成長が見込まれる事業分野に経営資源を投入して持続的な成長と企業価値の向上を図り、株主価値の増大に努めてまいります。なお、当期の配当金は当初の予定通り、前期と同額の1株当たり15円といたしました。株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要事項のひとつと位置づけ、財務体質の強化および経営環境の変化に対応するために必要な内部留保の充実等を勘案し、安定した配当政策を実施することを基本方針として取り組んでまいります。

イマジカ・ロボットグループの事業領域



セグメント別の概況

	2013/3 売上高構成比	2013/3 業績	事業の概況
映像技術サービス事業  imagica 株式会社IMAGICA 他3社 撮影、TV番組・CM・PR等のビデオ映像・音声編集、VFX・CGI制作、映画用フィルムの現像・プリント、Blu-ray Disc/DVDパッケージ化、3D撮影・編集など、あらゆるご要望にワンストップで対応する映像技術サービスを展開しています。		売上高 170.80 億 80 百万円 営業利益 18.45 億 45 百万円	ポストプロダクション作業は、テレビ分野では、2012年3月に新たに設立した「渋谷スタジオ」が本格稼働した他、特番の受注が大変好調でありました。また、CM分野についても、編集室が堅調に稼働いたしました。 しかし一方で、映画分野においては、フィルム関連サービス市場が大幅に縮小し、フィルムに隣接するサービスも受注が減少いたしました。
映像ソフト事業  ROBOT 株式会社ロボット 他2社 劇場映画・TVドラマ番組・アニメーション作品・Web関連映像の企画制作、TVCMを中心とした広告制作、ミュージックビデオを主とした音楽映像制作のほか、各種映像コンテンツのライセンスビジネスを行っています。個々の分野で確かな実績をあげるとともに、クロスメディアコミュニケーションへの対応も展開しています。		売上高 131.17 億 17 百万円 営業利益 5.20 億 20 百万円	映画分野では、「BRAVE HEARTS 海猿」、「踊る大捜査線 THE FINAL 新たなる希望」等の大型ヒット作品を制作し、制作収入等が貢献いたしました。 広告制作分野では、大型案件の受注を確保し、アニメ制作分野においてもヒット作に恵まれ、大変好調に推移いたしました。 また、東京駅丸の内駅舎の完成記念イベントや、会津若松・鶴ヶ城でのイベント等、多数の3Dプロジェクションマッピング映像の制作を手掛けました。
放送事業  imagica 株式会社IMAGICA TV ※1 衛星放送(BS / CS)・CATV・インターネット放送・ホテルペイテレビ等の視聴者の皆様に向けて、番組の放送・コンテンツ供給を行っています。3つの専門チャンネルを運営しており、高品質の映像コンテンツを企画・制作・編成してお届けしています。		売上高 51.30 億 30 百万円 営業損失 4.22 億 22 百万円	放送分野では、「イマジカBS」の放送を開始したことにより、加入者数が増加し視聴料収入は堅調に推移しましたが、衛星利用料を中心とした送出コストおよび番組プロモーション費用が増加いたしました。また、「歌謡ポップスチャンネル」は、スカパー! (旧スカパー! e2) および大手ケーブルテレビ局で放送を開始したことにより、加入者数が増加しております。 ホテル分野では、工事物販での案件を継続的に受注したこと等により収益を確保いたしました。
映像システム事業  Photron 株式会社フォトロン 他4社 映像・画像に関わる最先端の映像関連機器やソフトウェアの開発・製造・輸入・販売・保守サービス、画像関連LSIの開発・販売等の事業を展開しています。世界中をマーケットに販売しており、あらゆるトッププロフェッショナルの期待に応えています。		売上高 93.53 億 53 百万円 営業利益 9.6 億 6 百万円	イメージング分野では、高速度デジタルビデオカメラを自動車メーカー等へ納品するなど順調に推移いたしました。 プロ用映像機器分野でも、テレビ局からの大型案件の受注に加えて、フォトロンとIMAGICAデジックスの子会社2社の合併による経営の効率化と営業体制の強化により、収益性が向上いたしました。 その他、医用画像処理分野でも、医療機関からの受注を着実に獲得いたしました。
人材コンサルティング事業  IMAGICA DIGITALESCAPE 株式会社イマジカデジタルスケープ ※2 デジタルクリエイターやITエンジニア、映像制作者など、クリエイティブ分野に特化した人材派遣、人材紹介、トレーニング等のサービスを行っています。その他、ゲームやWeb、映像などの制作受託サービス、並びに写真や動画の撮影サービスも行っています。		売上高 87.77 億 77 百万円 営業利益 2.94 億 94 百万円	人材派遣・請負サービス分野では、WEBやゲームエンタテインメント職種を中心に派遣稼働者数が純増し、人材紹介案件も好調に推移いたしました。 映像技術者の人材派遣では、派遣稼働者数および作業単価が増加いたしました。 コンテンツ制作受託の分野でも、ゲーム制作受託を中心に顧客企業からの大型案件を受注したことにより、堅調に推移いたしました。

※1 株式会社IMAGICA TVは、2013年4月1日付で株式会社IMAGICA FTVを連結子会社化しております。 ※2 株式会社イマジカデジタルスケープは、2013年4月1日付

で株式会社コスモ・スペースを連結子会社化しております。

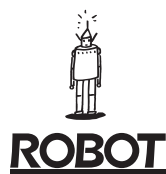
ロボット制作映画【BRAVE HEARTS 海猿】興収73億円突破!

(作品画像)

『海猿』シリーズは、“命の大切さ”や“人の絆”をテーマに、海上保安官たちが直面する海難事故の現場をダイナミックに描く作品で、いまや誰もが認める国民的ヒット作となりました。

この国民的ヒット作の制作を手掛けるのが、「ALWAYS三丁目の夕日」シリーズや「踊る大捜査線」シリーズも手掛けるロボットで、羽住英一郎監督もまた、ロボット所属の映画監督です。

2004年に劇場版第1作目『海猿』が公開され、2005年に『海猿 UMIZARU EVOLUTION』として連続ドラマ化、その後、劇場版第2作目『LIMIT OF LOVE 海猿』、第3作目『THE LAST MESSAGE 海猿』がそれぞれ2006年、2010年に公開されました。第3作目を完結編として『海猿』シリーズに終止符が打たれるはずでしたが、続編を望むファンの声が絶えず、今回の第4作目『BRAVE HEARTS 海猿』が実現し、みごとに2012年興収ランキング第1位の座に輝きました。



©2012フジテレビジョン ROBOT ポニーキャニオン 東宝 小学館 エー・チーム FNS27社

3Dプロジェクションマッピング【TOKYO STATION VISION】の映像制作

(作品画像)

2012年に大きな話題となり注目を集めた3Dプロジェクションマッピングですが、中でも特に話題になったのが、東京駅丸の内駅舎保存・復原完成記念イベントとして2012年9月にJR東日本の主催で行われた、『TOKYO STATION VISION』でした。NHK エンタープライズの総合演出のもとピクスが映像制作を担当しました。

大正時代創建当時の姿によみがえったルネサンス様式煉瓦作りの駅舎をスクリーンに、最先端の技術を用いて高精細フルCG映像を投影。幅120m×高さ30mのスクリーンに、全46台のプロジェクターで投影する歴史的な映像ショーは、国内史上最大規模のものとなりました。「時空を超えた旅」をテーマに東京駅や鉄道の歴史をめぐる幻想的な映像は、予想をはるかに上回る来場者を記録し、大盛況のうちに幕を閉じました。

©NHKエンタープライズ DVD 2012/12/25発売

P.I.C.S.

映画専門チャンネル【イマジカBS】、おかげさまで開局1周年

2012年3月1日の開局から、「ストーリー＝物語性」を重視した作品にこだわり、皆様から愛される、魅力あふれるチャンネル作りを目指してきました。

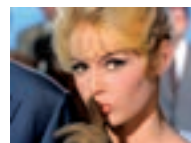
2年目を迎えた『イマジカBS』は、これからもハリウッド大作から永遠の名画はもちろん、世界の映画祭受賞作品や日本初放送作品など、他にはない充実のラインナップで、『イマジカBS』ならではの魅力あふれる作品をハイビジョン、ノーカットで放送いたします。

映画を愛する皆様のための、世界最高峰のエンタテイメント『イマジカBS』をお楽しみください。

<http://www.imagica-bs.com/>

映画はイマジカBS

IMAGICA
BS



殿方ご免遊ばせ
©1957 FILMSONOR-
LES FILMS ARIANE-
CINETEL-PRETORIA

IMAGICA TVは、歌専門chと食専門chも運営しています。

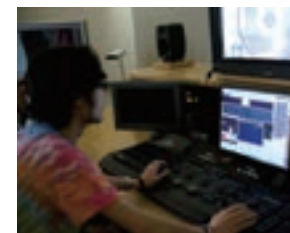
歌謡ポップスチャンネル 食と旅のフーディーズTV

IMAGICAが昭和34年皇太子ご成婚記録映画のデジタルリマスター作業を担当

1959(昭和34)年4月10日の皇太子ご成婚の記録映画が美しく鮮明な映像に蘇り、昨年末にTBSで放送されました。これまでも数多くの名作映画のリマスターを手掛けてきたIMAGICAが、この映像修復作業を担当しました。

フィルムは経年劣化が激しく、年を重ねるごとに波打ったり傷がついてしまいます。修復するにはまず、手作業でフィルムの傷み具合を丹念に調べていき、特に傷みのひどい部分を補強していきます。

次に専用機器でフィルムの映像をデジタル化し、最後に元の色が失われた映像の色を補正していきます。こうして丁寧に作業を重ねていくことで、馬車やドレスの細部、観客の表情などが鮮明に見える映像として鮮やかに蘇っていくのです。



2012年12月7日、更なる飛躍を目指して東京証券取引所市場第二部に上場

イマジカ・ロボット ホールディングスは、2011年4月にグループ組織再編によりジャスダック市場の上場企業となり、それから約1年半を経た2012年12月7日に東京証券取引所市場第二部に上場いたしました。これもひとえに、株主の皆様をはじめ、関係者の皆様の暖かいご支援・ご協力の賜物と心より感謝申し上げます。

これからも、映像産業の未来へ向かってグループ一丸となり、業容の拡大と企業価値の向上を目指してまいりますので、皆様には引き続き変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



連結財務データ

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	前期 2012/3	当期 2013/3
流動資産	24,937	25,201
固定資産	14,636	13,899
資産合計	39,573	39,101
流動負債	12,899	11,169
固定負債	3,033	2,959
負債合計	15,933	14,128
株主資本	23,542	24,501
その他の包括利益累計額	△51	290
少数株主持分	148	180
純資産合計	23,639	24,973
負債純資産合計	39,573	39,101

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	前期 2012/3	当期 2013/3
売上高	50,865	49,919
売上総利益	14,347	13,488
営業利益	2,935	2,012
経常利益	2,980	2,095
当期純利益	2,222	518

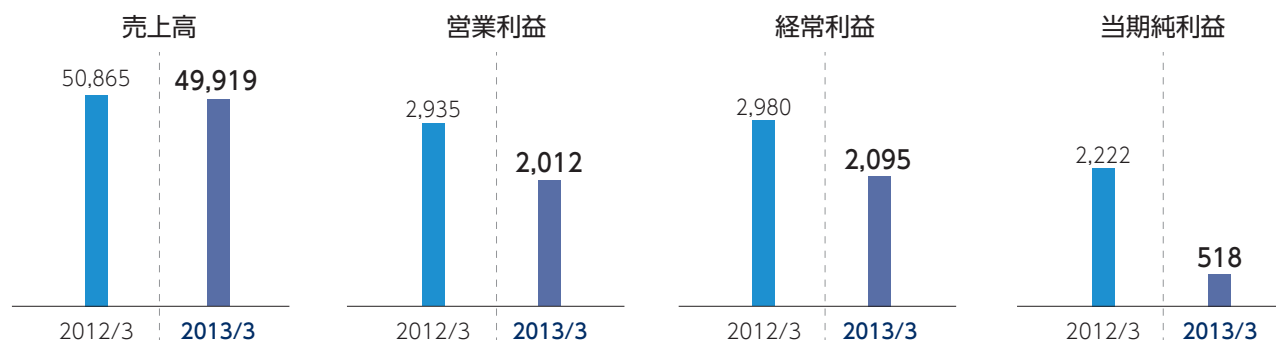
連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	前期 2012/3	当期 2013/3
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,902	1,938
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,510	△3,085
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,952	430
現金及び現金同等物に係る換算差額	20	51
現金及び現金同等物の増減額	△1,538	△665
現金及び現金同等物の期首残高	10,329	8,790
現金及び現金同等物の期末残高	8,790	8,124

連結財務ハイライト

(単位:百万円)



会社情報 / 株式情報 (2013年3月31日現在)

会社概要

商号	株式会社イマジカ・ロボット ホールディングス Imagica Robot Holdings Inc.
設立	1974年6月10日(創立:1935年2月18日)
事務所	〒100-0011 東京都千代田区内幸町一丁目3番2号
所在地	内幸町東急ビル11階
資本金	32億4,491万5,250円
従業員数	1,302名(774名)

※ 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は()内に外数で記載しております。

役員 (2013年6月25日現在)

代表取締役会長 グループCEO	長瀬 文男
代表取締役社長社長執行役員	長瀬 朋彦
取締役常務執行役員	角田 光敏
取締役執行役員	北出 継哉
取締役	塚田 真人
	中祖 眞一郎
社外取締役	中内 重郎
	伊与部 恒雄
執行役員	大久保 力
	竹岡 峰夫
	安藤 潤
常勤監査役	板東 重武
社外監査役	杉野 翔子
	岡田 光一郎

主要グループ会社の代表者 (2013年6月25日現在)

株式会社IMAGICA 代表取締役社長	藤川 幸廣
株式会社ロボット 代表取締役社長	加太 孝明
株式会社IMAGICA TV 代表取締役社長	伊藤 明
株式会社フォトロン 代表取締役社長	布施 信夫
株式会社イマジカデジタルスケープ 代表取締役社長	大林 克己

株式の状況

発行可能株式総数	150,000,000株
発行済株式総数	42,472,102株 (うち自己株式2,059,465株を除く)
株主数	3,449名

大株主 (上位10名)

	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社クリアート	27,863,120	65.60
株式会社三井住友銀行	1,244,500	2.93
株式会社フジ・メディア・ホールディングス	848,000	2.00
株式会社AOI Pro.	800,000	1.88
三井住友信託銀行株式会社	512,000	1.21
長瀬文男	403,200	0.95
株式会社みずほ銀行	400,000	0.94
イマジカ・ロボット ホールディングス 従業員持株会	380,750	0.90
HSBC BANK PLC A/C MARATHON FUSION JAPAN PARTNERSHIP LP	320,000	0.75
株式会社TBSテレビ	320,000	0.75

※ 持株比率は自己株式数(2,059,465株)を控除して算出しております。

株式の分布状況

